



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities

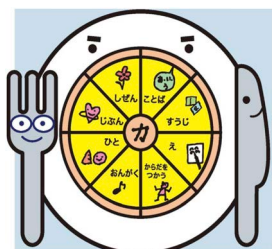
会 報 第123号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：モンテッソーリの教具に学ぶこと
- ・第31回大会（京都）開催報告
- ・第31回大会（京都）印象記
- ・〈連続講座1〉第2回 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト～多職種連携の取り組み・保育所等訪問支援を通じた連携～
- ・〈連続講座2〉第2回 GIGA スクール時代における特別支援教育
- ・事務局の紹介
- ・PATIO～実践の最前線～



モンテッソーリの教具に学ぶこと

白百合女子大学

涌井 恵

今年度より白百合女子大学に着任し、本学発達臨床センターで療育指導を始めた。本学にはモンテッソーリ教具が豊富にあり、来談するお子さんと使ってみると、改めてその教具の奥深さに気づかされる。

例えば「ペグさし」。不正解のペグを子どもが入れた場合には、ペグの高さをはみ出たり、（円周が）小さすぎてグラグラしたりするので、指導者が声をかけずとも、子どもは、「ん？」と考えたり、「あ！」と気づいて、自分で正解のペグを見つけ出す。そこには、自ら主体的に、深く考える子どもの姿がある。

さて、本センターには読み書きの困難を主訴とするお子さんが多く来談する。読むことにも書くことにもかなり拒否感のある子どもたちが多い。そんな子どもたちの療育指導では、「できないかも」、「失敗するかも」と微塵も感じさせずに取り組み、モンテッソーリ教具のように失敗しても試行錯誤して自分で正解に辿り着くことのできる指導プログラムの作成に、学生らと毎週奮闘してい

る。例えば漢字学習の場合、まず正しい書き順で空書きをし、次に読み方や熟語を確認していく。ここは正解を見ながらなので、失敗することはない。そのあと「どうやって覚える／思い出す？」と尋ね、8つのマルチ知能とやる気・記憶・注意の3つの観点から、漢字を覚えるアイデアを考え、それを試していく（例えば、モールや粘土で漢字を作ったり、その際、間違えやすい辺を赤色にしてみたり、「『囧』の中には「ツバメ」が入っている」と子どもなりに漢字の形を捉えたり等する）。そして最後に、「もう覚えた」と子どもが判断したら、確かめのテストを行う。

少しずつ指導の手応えを感じつつあり、子どもが学習の主体者となることの重要性を実践から改めて学んでいる。学習指導要領では「主体的に学習に取り組む態度」の評価が重要視されている。特別な支援の必要な子どもに、どのように主体的に取り組ませるのか、そのヒントの一つがモンテッソーリ教具にあるように思う。